

第1回 いわき市後継医療機関選定委員会 議事要旨

I 開催日時：平成21年4月27日（月） 17:40～18:30

II 開催場所：市役所本庁舎 第3会議室

III 出席者

○選定委員会（順不同、敬称略） 5名出席 2名欠席

役職等	氏名	出欠
いわき市医師会長	木田 光一	出席
いわき市病院協議会長	松村 耕三	出席
いわき市病院事業管理者	鈴木 孝雄	出席
総合磐城共立病院長	樋渡 信夫	欠席
常磐病院長	江尻 友三	出席
日本大学商学部教授	高橋 淑郎	出席
公認会計士	樋口 幸一	欠席

○事務局出席者

役職等	氏名
病院局長	本間 静夫
参事兼分院事務管理室長	根本 茂信
本院経営企画課長	渡部 登
病院局統括主幹兼経営企画課長補佐	飯尾 仁
主幹兼病院再編推進室長	渡邊伸一郎
病院再編推進室総括主査	小島 誠一
病院再編推進室事務主任	大西香奈子
病院再編推進室事務主任	田村 輝
病院再編推進室事務主任	浜井 裕介

IV 次第

- 1 開会
- 2 いわき市後継医療機関選定委員会設置要綱について
- 3 委員長及び副委員長選出
- 4 委員長挨拶
- 5 議事（公募にあたっての基本的な考え方、スケジュール等、その他）
- 6 閉会

V 主な内容

(1) 委員会の運営及び正副委員長について

- ・透明性の確保及び市民への説明責任の観点から、委員会は、報道機関等に対し、公開するとともに、議事における発言要旨を公表することとした。
ただし、後継医療機関の選定にあたっては、応募者の財政状況など信用情報の保護及び評価の公平性確保の観点から、その都度公開の是非を諮るものとした。
- ・委員長に「日本大学商学部教授 高橋淑郎委員」を、副委員長に「市医師会長 木田光一委員」を互選した。

(2) 議事(後継医療機関公募にあたっての基本的な考え方及びスケジュールについて)

<質疑>

委員A：民間譲渡以外に、「公設民営」という選択肢はないのか。

事務局：安全・安心の医療提供と安定した経営基盤の確立を目指し、地域医療の観点、財政の観点など様々な視点から検討を重ねてプランを策定したところである。市としては、このプランに沿って後継医療機関に引き継ぐこととしたい。

委員A：公募期間は2週間となっているが、市内の医療法人を対象として手が挙がらなかった場合、対象を市外まで広げるのだろうか、スケジュールはどうか。

事務局：公募期間については、先行事例を参考としてお示しした。期間も含めご議論いただきたいが、仮に応募がなかった場合には、一旦立ち止まって、結論が出た段階で次のステップに進むこととしたい。

委員C：もし市内に応募がなければ立ち止まるという表現があったが、もう一度最初から仕切り直すということか。

事務局：先に進むために立ち止まるという意味である。

委員B：スタッフを集めるのが、困難であるため、市内の医療機関で手を挙げるところがあるのか極めて疑問である。また、市内の医療機関から無理に引き抜きをすれば、市内で共存できないため、この問題を解決できるだけの力のある病院が市内には無いと思う。

医師会立の病院を作ることも可能だが、資金調達などが大変である。

事務局：手が挙がらないという判断があれば、どの様な条件なら市内で受け手があるのか、議論いただき、取りまとめていきたい。

委員B：もし市内で手が挙がらない場合、市内の医療機関が対応できる条件まで落とすのか、条件を落としても対応できない場合は県外から入れるということで考えているのか。結果的に県外から来たら、大きな意味での医療崩壊につながる可能性は十分にある。

事務局：市としては、改革プランに定めた「市内の医療法人に引き継ぐことを基本」という方針どおりやっていくことを考えている。次の段階に進むかどうかはその結果次第である。また、この委員会でどのようにまとめられるかによっても大きく変わる。

委員C：県外から来ると医療が崩壊するというのをもう少し具体的に聞きたい。

委員B：県外から来た場合、看護・その他のスタッフ 200 人強がこの町に移住してくる可能性はほとんどなく、市内の医療機関から引き抜くしかない。スタッフが引き抜かれることによって病院として存続できないような立場に追い込まれて潰れたとしたら、市の責任になるのではないか。

委員C：現在の常磐病院の職員のうち、引継先の新病院に残る人がいるか。

委員E：後継医療機関の選定はこれからであり、現段階で何人残るのか答えようがない。公募の期間については、むしろもっと短くてもよいのではないか。選定後の引継ぎ期間は長い方がよい。

委員D：いわき市内が対象であるため、2週間程度でよいのでは。

委員C：応募する側からすれば、内容の検討や意思決定などに相当な時間を要することになるので、最低でも2週間、いやそれ以上必要かもしれない。

委員A：スタッフの引抜き防止策として、提案書に、医師・看護師等の予定者の名簿のようなものを求めるのか。

事務局：スタッフ、人員体制、病床数など、基本的な要件については、出しているだけでことが望ましいと考えているが、委員会で議論をお願いしたい。

委員B：やはり、対応可能な引継先は、市内には存在しないのではないか。

事務局：無理なのではないかという議論より、問題があるならどういう要件にすべきかという観点から議論をお願いしたい。

委員B：要件の緩和をすることか。

事務局：そうした点も含めて、お願いしたい。

委員E：常磐病院は年齢の高いスタッフが多く、給与が高い。民間に移った際に、市は給与のギャップを埋めるような対策をとるのか。

委員C：引継先を市内に限定していることについては、どんな条件緩和が必要なのか、どういうことを対応すればよいのか、市内がダメだった場合、県内なのか全国なのかなど、整理が必要である。同時に委員の皆様にも市内で解決するにはどのような工夫が必要なのか聞かせていただきたい。

委員A：給与の官民較差について、先進事例では差額を補填したというところもあるが、市の考えというのはどうなのか。

事務局：他の事例等を調べて次回には報告したい。

委員C：先進事例の中には良いものも悪いものもあるので、しっかりと整理してほしい。

委員C：本日の議論を踏まえ、次回、公募の条件等について、さらに掘り下げていくこととしたい。